農工大の樹 その30

ア　オ　キ

〈解　説〉

ア　オ　キ

（ミズキ科アオキ属の種，学名：*Aucuba japonica Thunb.*

これは樹高１～２m前後の常緑性の低木で，雌雄異株です。近撮写真の右が雄花，左が雌花です。和名は幹や枝まで緑であることからついたもので，全体に独特の臭気があります。一般に，濃緑色の厚く大きな葉ですが，斑入りの葉の品種もあります。アオキの自然分布は九州，四国，本州の太平洋側地域に広がっていますが，日本海側地域と北海道には小型の葉で，若枝に毛がつく変種，ヒメアオキが分布しています。また，この仲間は中国にも分布します。先年，中国四川省，臥眉山での調査の折り，山中で樹高10 m，直径15cm 程度のアオキの高木（シナアオキ，*A. chinensis Benth.*）に遭遇したときにはびっくりしました。また，この種は，あまりに違う外見でにわかには信じられませんが，街路樹として盛んに植えられているアメリカハナミズキと同じ仲間（科）です。低木であることから材としての利用はありませんが，観賞用の庭木として広く植えられています。東海地方奥三河ではこの種をミソバと呼び，味噌桶の上にこの種の葉を敷くことで味噌の酸化やカビの発生を防いだそうです。また，民間療法ではこの葉を弱火であぶり，揉んで柔らかくなったものを貼って腫れ物や火傷の薬として利用したそうです。

（農学部 教授 福嶋　司）